

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200078		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	上川郡下川町錦町305番地		
自己評価作成日	平成28年7月7日	評価結果市町村受理日	平成28年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0193200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0193200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさとを開設してから5年と半年がたちました。入所した方も5年が過ぎ、9名の入居者のうち5名が90歳を超えています。「ここが自分の家」と認識しており古い職員ともなじみの関係を築いており、お互い言いたいことも言い合います。聞くと皆さんが「長生きしたな」と言い「100歳まで生きようね」と皆で話しをしながら1日でも長く一緒にご飯を食べていられる様、支援しています。天気の良い日を選び戸外で焼肉も楽しめます。歩くことも難しくなり、散歩に誘いますが、口をそろえて今でも「寒いから嫌だ」と言いベランダで外気浴を楽しみます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下川町中心部に開設され、鉄筋平屋造り幼稚園改装型1ユニット(定員:9名)のグループホームです。毎年、ふるさと交流会を開催して、地域の住民や警察官、地域の役員や家族、ボランティア等に参加を呼び掛けて焼肉パーティーを開催して地元の人々との交流に取り組んだり、町内の福祉運動会見物やラーメンや丼ものなどの外食で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。また、散歩や外気浴、畑作業、町内での買い物や紅葉狩り、大型ショッピングセンター見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。職員の福利厚生に取り組んで職員の離職は少なく、継続したケアサービスを提供していると共にご家族との信頼関係を築いて共に本人を支えていく関係づくりに努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげるよう努力しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、全体会議や日常業務を通じてその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所様との日常のあいさつはしている。旬の野菜は届けてくださいます。地域のイベントなどには参加していたが現在は難しくなっている。	毎年、ふるさと交流会を開催して、地域の住民や警察官、地域の役員や家族、ボランティア等に参加を呼び掛けて焼肉パーティーを開催し、地元の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回地域の人々との交流会を行っている。多くの人に参加を呼びかけこれからも認知症の理解等皆さんに向けてゆきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生かされるよう努力します。	運営推進会議では、行事等の案内や利用状況、日常の生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度地域包括ケア会議に出席し、情報交換している。	毎月、地域ケア会議に参加して、地域のニーズや困難事例等の情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解している。又、夜7時までは施錠していない。	年間の研修計画で身体拘束廃止や高齢者虐待防止について話し合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は注意を払い、職員にも見過ごされることがないように促し、新聞記事など回覧している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族との話し合いはできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所するときに説明をし、納得していただいている。入院などの時も相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度対応していますので苦情などないと思う。	家族等の来訪が多く、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように投書箱を設置し、意見や苦情等の申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を行い意見を聞いている。	福利厚生の実現に取り組み、職員の離職は少ない。また、全体会議や日常業務を通じて職員の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善にむけ、キャリアコンサルタントとの面談の機会を作っている。職場環境の改善に向け努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って月に一度勉強会を行っている。必要があれば都度行う。外部研修の機会を作りたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	交流はできていない。今年は実践したいと思う。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は本人の希望や、ご家族からは現在の状況を聞き取り安心できるように努め、信頼関係を築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、困っていることなどいつでも連絡をしていただけるよう伝え、傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期は心配が大きく、本人が必要としている支援について何ができるのか会議の時にミナで話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に掃除したり、洗濯物を畳んだり、できることを行っただき本人は必要とされる喜びが得られる様、快適に暮らせるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題が生じたときなど、ご家族、本人と一緒に話し合いお互いの思い、絆を大切にしながら支えていく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢になり出かけることもままならず、面会に来ていただいています。居室にニ地味の物、写真などを飾っています。	町内の福祉運動会見物やラーメンや丼ものなどの外食で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰と誰が仲がいいのか、嫌っている人は誰なのか職員同士で情報を共有し支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員で検討・共有し、困難な時は表情などをくみ取り努力している。	全体会議やカンファレンス等を通じて、一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から詳しく聞き取るよう努めている。本人からは日常の会話の中で聞き取り把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分に合った暮らしぶりが定着しており、職員はそれに沿った援助を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ていると思います。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、協力医療機関からの指導や助言、全体会議やモニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議の時に検討し見直しなどに行かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応しご家族からの相談にも応じ支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけの医師の受診を受け、日常の把握をしながら医師に助けをもらい日々の暮らしに取り入れています。必要な時はご家族と共に医師の話を聞いています。	日常的な健康管理や通院への送迎等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Drとの意思の疎通はできている。受診結果など大事な情報はご家族にも報告をしている。入院などが長引くことが無いよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変などはあまり実践する機会がなく、訓練などは毎年行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。消防署、地域のお寺など協力していただいています。	年2回の火災避難訓練の実施や町主催の災害総合避難訓練参加、救急救命訓練も実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備が完備され、定期点検も実施している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情、身振り、手ぶりなどで自分で意思表示が困難な時でもくみ取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者中心に働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店、美容室など事業所で交流しながら出張していただいている。髭剃り、毛染めなど必要に応じ行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊事はできなくなっているが、下ごしらえ、芋の皮むき、野菜切り、食器拭きなどできることは職員と共にやっている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理の準備や盛り付け、食器洗いや食器拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないが多くの食材を摂取できるよう考え、摂取量、水分量、体重の増減に気を付けながらまた、楽しみな手作りの食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ介助を行っている。自分でできる方は、見守り、声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はポータブルトイレで排泄できる人は設置し自立できるよう支援している。トイレの声掛け、誘導など自立できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルト、ヤクルトなど摂取を行っている。個々の排泄パターンを把握し、水分量など気を付けている。野菜は多くの種類が摂れるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決めているが本人の希望を聞き要望に応じている。	一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に心掛け安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握している。受診の時の薬の変動など情報は共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみごとなどいつでも行えるよう見守っている。レクレーションなどの参加もしていただき、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり希望を聞くが夏でも「寒い」と言い外には出たがらないことも多い。高齢になり又、その日の体調を見ながら外出できるよう努力したい。	散歩や外気浴、畑作業、町内での買い物や紅葉狩り、大型ショッピングセンター見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金を所持しているがそれを使いたいとの希望はない。孫が遊びに来たときはそれでお小遣いとして渡していることもある。「食べたい物を買いたい物に行こう」と誘うこともあるがあんた買ってきてといわれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がダイヤルを回し本人に取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が心を配りできているように思う。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節ごとの飾りつけ等で生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のいる場所はいつも同じで、居室に籠ることも少なく落ち着いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着けるものを家族と相談しながら居室を工夫している。落ち着きよく休まれています。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要があれば手摺の設置をし、安全に移動ができるよう見守り、支援している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームふるさと

作成日: 平成 28 年 7 月 19 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	34	緊急時に備えての対応を定期的に行う必要がある。	避難訓練、救急救命訓練を定期的に行う。	町主催の災害総合避難訓練の参加や消防署の協力を得て救急救命訓練、AEDの使用法訓練等を定期的実践していく。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。